

第 38 回土木計画学研究発表会（秋大会）：2008 年 11 月 1 日～3 日（和歌山大学）  
セッション討議内容の記録

セッション名：自動車保有・利用	
日付：11月2日（日）曜日、セッション時間：9:00～10:30	
司会者名（所属）：高野伸栄（北海道大学）	
討 議 内 容	<p>セッション全体： 本研究分野は今後、今以上に重要な分野となると考えられる。将来一般の人が自動車を利用できないほど、ガソリン代が高騰する場合も考えられるのではないかと。そのためにも F P M（Future Personal Mobility）の検討が必要。 自動車保有をライフサイクルステージとの関連でもとらえるべきである。</p>
	<p>（発表番号）発表者名（所属）：三輪富生(名古屋大学) 各交通手段利用が伸びる原因は何か 人口の伸びが主因 新しい交通モードが入ることによる交通システム上の問題を考えなくて良いか？又、トリップ特性の変化を考えなくても良いか？ F P M の特性・コンセプトはいかなるものを想定しているか それを明らかにするのが目的である</p>
	<p>（発表番号）発表者名（所属）：小林迪子(東京工業大学) データ数が多いことによる分析上の課題は何か 操作性難、t 検定以外の特性を分析する要あり 2 時点のみの分析では将来予測等において制約が大きいのではないかと 都心部、地方部の分類を軽自動車の車庫証明要・不要の地域分けに一致させるべきではないか</p>
	<p>（発表番号）発表者名（所属）：桑野将司(広島大学) 保有期間との関係において、総走行距離と年間走行距離の挙動は異なるのではないかと コホートのアプローチも必要なのではないかと 大型車、小型車等車種の違いを考慮すべきではないかと 企業の車利用、保有も考慮すべきではないか。</p>